

科目名	フィジカルアセスメント	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	1年前期 令和6年4月19日	単位数/時間	1単位/30時間
担当講師名	秋田剛典	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師 保健師
授業の概要	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学ぶ。 2. 対象の健康問題を把握し、適切な援助につなげるためのフィジカルアセスメントの重要性を認識する。 3. 看護者自身の5感を使って対象を観察するフィジカルイグザミネーションの方法を習得する。 4. 人間を身体的・心理的・社会的に統合された存在として捉える重要性を認識する。		
到達目標	1. フィジカルアセスメントに必要な診査の技術の意義と目的を理解する。 2. バイタルサイン測定の意義と目的を理解し、正しい実施方法を習得する。 3. 対象を身体・心理・社会の3側面から系統的にアセスメントする必要性とその方法を理解する。		
事前学習内容	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱの既習部分の内容を復習しておく。		
成績評価の方法	筆記試験(100点) ※講義や演習への参加状況によっては減点の対象となる。		
使用テキスト・参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ [第19版第2刷] (医学書院) 2. 看護技術プラクティス [第4版] (学研メディカル秀潤社) 3. フィジカルアセスメントポケットBOOK (照林社)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)	授業形態	使用テキスト以外の必要物品
第1回	ヘルスアセスメントの意義	講義	
第2回	問診の技術		
第3回	診査の技術(視診、触診、聴診、打診)		聴診器
第4回	バイタルサイン(体温)		体温計
第5回	バイタルサイン(脈拍)		アナログ式の時計
第6回	バイタルサイン(呼吸、意識)		アナログ式の時計、ペンライト
第7回	バイタルサイン(血圧)		聴診器、血圧計
第8・9回	血圧測定	演習	
第10.11回	バイタルサイン測定	演習	聴診器、血圧計 アナログ式の時計
第12回	計測、心理・社会状態のアセスメント	講義	第10.11回と同じ
第13回	系統的なフィジカルアセスメント	講義	
第14・15回	系統的なフィジカルアセスメント	演習	
履修上の留意点	1. 授業中の居眠りや、授業と無関係のことをしていた場合、欠課扱いとすることがある。 2. 授業進度、学習状況によって内容が変更される場合がある。次回授業の予定を適宜確認しておくこと。 3. 演習形式での授業が多い。演習では積極的に参加し、技術の習得に努めてほしい。 4. 8回目以降の演習には実習着を着用し、身だしなみを整えて臨むこと。 5. 使用テキスト・参考書に、本授業に関連した動画を視聴できるQRコードが掲載されている。事前・事後学習として動画の視聴を推奨する。 6. 聴診器と血圧計は、本授業以後も臨地実習で使用するため、使用後はメンテナンスする習慣をつける。 7. 聴診器と血圧計同様に、アナログ式の時計は今後の臨地実習でも使用する。腕時計でも吊り下げ式でも型は問わないので、事前に準備しておく。		